

【GP 農法の原点は、静電三法という理論から】

GP 農法推進プロジェクトは、

「土壤微生物」「酵素」「漢方」また、「気」「地磁気」「海のエネルギー」「波動」

などについて多方面から研究・活動・修業をしてきましたが、実は、それら全てが一つに繋がっていました。

物理学者 檜崎皐月氏の「静電三法」というものです。

【静電三法】は、

「植物波農法」、「物質変性法」、「人体波健康法」の、3つの技法から成り立っています。

GP 農法、神農本草経からの漢方のエネルギー、メタフィジカルヒーリングの3つはこの理論であり、これを研究・実践して来ていたのです。

【静電三法】物理学者:檜崎皐月

①植物波農法

静電気と自然界の電磁

場の作用によって大気と大地電位調節を図り、植物の生育環境を改善し、農薬・化学肥料を多用することのない理学的な農業技術を目指す。

②物質変性法

物質の外部環境を静電的に変化させることにより、物質の諸性質を極めて省エネルギーで目的に合うように変え、工業の原材料や製品の質の改善を図り、新しい工業生産技術を確立する。

③人体波健康法

周辺環境の電気と人体の電気現象とのかかわりから、周辺環境の電氣的な条件を改善し、本来の健康体をつくる「建設医学」を提唱した。

【「静電三法」を具体化した GP 農法】

前頁にて、GP 農法が「静電三法」の理論とつながっていることをお伝えしました。そこで、この静電三法を GP 農法がどのように解釈して具体化しているかを、「陰と陽のエネルギー」という言葉を使って表現してみました。

【 静電三法(植物波農法) を具体化した GP 農法 】

樹木があるところは地磁気が高く、人も植物も元気になります。
畑に特殊加工をした GP セラミックを埋め込んで、そのセラミックの地磁気の「陰と陽のエネルギー」を使って、土地の地磁気を上げて「ゼロ磁場」を作ります。

さらに、30 種類以上の草を発酵させて草の酵素を作ります。
草の酵素も、「陰と陽のエネルギー」から成りたっています。
この草の酵素には高いエネルギーの養分があり、それを使って地中の微生物を活性化させます。

地中の微生物も、「陰のエネルギーの微生物」と「陽のエネルギーの微生物」に分かれています。

GP 農法は、陰と陽のバランスの取れた「微生物のエネルギー」を利用して、安心して健全な作物を作ること目的とした農法です。

【 静電三法(物質変性法) を具体化した GP セラミック 】

漢方のバイブルの書である神農本草経では、上薬、中薬、下薬として3種類に分かれていて、それぞれに効能効果があります。

上薬の1～15番まで、中薬の6番まで、下薬の5番までは全て石、鉱石金属です。
上薬の説明文には、「気を増す、若返る」とあります。

これはエネルギーのことです。それがヒントになり、エネルギーの元を見つけたのです。
このエネルギーも「陰と陽のエネルギーから成りたっています。
そして、石、鉱石金属のエネルギーをセラミックに移す技術を確立しました。

もう1つあります。上薬の中にある霊芝です。
神農本草経には、もの凄い効能効果が書いてありますがその効果はなかなか表れません。
しかし、霊芝には「樹木の地磁気」が宿っていることがわかったのです。
霊芝は樹齢 200 年たった樹木に生育するサルノコシカケというキノコのことを言います。

樹木そのものの気のエネルギー(地磁気)が高いので、そのキノコのエネルギー(地磁気)も高いのです。
そして、樹木のエネルギー(地磁気)をセラミックに移す技術も確立しました。